

どのような未来を目指すための事業か

災害時にも機能する強靱な道路ネットワークを構築するため

バイパス道路をつくります

地元の声

- ・自然災害による道路の寸断などがおきないようにしてほしい。(地元住民)
- ・桐生・みどり地域は南北移動に時間がかかるため、スムーズに移動できるようにしてほしい。(地元住民)



事業の概要

- 事業箇所: みどり市大間々町桐原～笠懸町鹿
- 事業内容: バイパス整備 延長 4.1km 道路幅 14.5m
- 事業期間: 令和4年度～
- 重要物流道路: 該当(代替・補完路)
- 現在の交通量: 8,866台/日(現道 自動車)
(令和3年度) 15人/12時間(現道 歩行者)
64台/12時間(現道 自転車)
- 計画交通量: 4,400台/日(現道 自動車)
(令和22年度) 7,300～11,700台/日(バイパス 自動車)

事業前

- ◆ 現道の県道大間々世良田線は、赤城駅の踏切前後等を中心に渋滞が発生しており、緊急輸送道路でありながら、円滑な通行に支障をきたしています。



事業前の状況

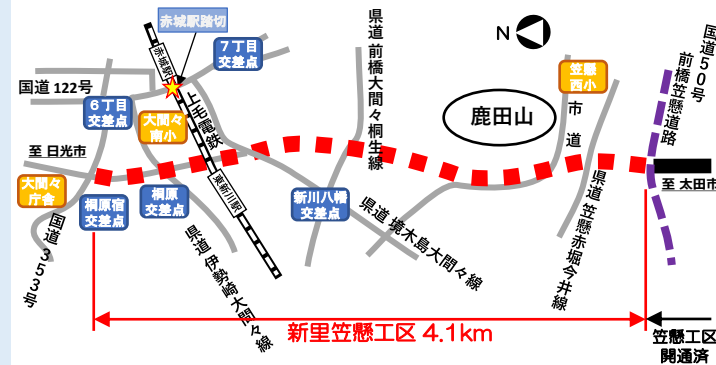
事業後

- ◆ バイパス整備により、現道の交通をバイパスに転換することで渋滞が解消され、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークが確保されます。



事業後のイメージ

事業の進捗状況(令和8年3月末現在)



今、何をしているか

令和8年度は、都市計画決定手続き及び用地測量を行います。



成果を示す項目	実施前
移動時間(国道353号～国道50号)	約13分
主要渋滞箇所	5箇所

実施後(目標)
約9分(4分短縮)
1箇所(4箇所減少)